



# なぜ予算ゼロで始めた「神田カレーグランプリ」が 来場者4万人を超えるイベントになれたのか

神田カレーグランプリ実行委員長 中俣 拓哉様

## 卓話者紹介

岡田 邦男会員

神田小川町にある小川広場で2011年にスタートした「神田カレーグランプリ」は、今年で9回目を迎えることになりました。私を含め実行委員5名、予算ゼロ円から始めたこのイベントが、なぜ毎年2日間で4万人を超える来場者を迎え、10万部のフリーペーパーを発行できるようになったのか、地域イベントの在り方の事例としてお話しします。

まず、「神田カレーグランプリ」のデータをご紹介します。会期は10月下旬～11月初旬の土日2日間。出場店舗は20店。来場者数は初年度の2011年が31,000人で、昨年(2018年)が42,000人。神田カレー街公式ガイドブックは、2012年に創刊し、発行部数は2019年の今年で10万部となりました。

## なぜ予算がゼロで、イベントを始められたのか？

その第一の理由は、カレーグランプリが神田スポーツ祭りの中の一イベントだったからなのです。カレーグランプリを実施するには、最低でもテントなどの会場設営が必要になりますが、これらはスポーツ祭り全体の予算の中に組み込まれました。告知に関してもスポーツ祭りのパンフレットの中で、一緒に告知してもらうことができました。その時すでに17回目の開催となるスポーツ祭り内の特別イベントとして行うことで、通常大きな課題となるイベントの広報にも予算をかけずに済みました。

また、予想以上にメディアに採り上げられたことも、告知において追い風となりました。メディアに取り上げられた主な要因として、

- ・そもそもカレーへの関心度が高い
  - ・カレー店が神田界隈に集結していた
  - ・イベントの目的が地域活性である
  - ・来場者の投票によってグランプリが決まる
  - ・企画実施運営が地域のボランティアである
- ということなどが考えられます。とにかく多くのメディアにパブリシティとして扱われたことにより、無料で宣伝広告の効果を得ることができました。

私たち神田カレー街活性化委員会が独自に主催となったのは、2014年からになります。

全国には様々な目的のイベントがありますが、地域活性化を目的としたイベントならばこの事例は参考になるのではないのでしょうか。イベントを立ち上げたいが、予算がない、運営スタッフも少ない、といった場合、既存のイベントとコラボレーションできないかということを検討するのです。同じ目的で、さらなる集

客や来場者満足度を上げることができるなら、お互いウィンウィンですし、テストマーケティングの意味でもとても有効です。コンテンツに力があれば、規模が小さくても注目度は大きくなります。ただし、当然ですが地域との連携はとても重要になります。自治体だけでなく街には様々な連合会や事業団体、町会などがあり、それぞれに色があり個性的です。できるだけ情報共有し、協力をお願いする姿勢が必要です。結果、とても大きな支援者ともなりえます。

## 4万人以上集めても神田カレーグランプリは本当の地域活性化にはならない？

テレビ・雑誌をはじめメディアにも多く取り上げられ、来場者が2日間で4万人を超えるイベントであっても、それだけでは地域の活性化には直接つながりません。

地域の活性化とは、その街での人と人の継続的なコミュニケーションが作り出すものだと考えるからです。1年のうち、2日間カレーグランプリを楽しんで頂ける人が4万人いても、神田の街とカレーを知っていただけるきっかけにすぎません。そこには人と人の継続的な交流が少ないからです。

それを作り出したのが、「神田カレー街食べ歩きスタンプラリー」です。その特徴は「神田カレーマイスター賞」。スタンプラリーを制覇するともらえるのは豪華な賞品ではなく、神田カレーマイスター賞という名称とそれを証明するカードだけです。達成者は年々増え2014年から昨年までの5年間で、延べ1,613人に上ります。神田の街とカレーを広報してもらおうと作った賞でしたが、マイスター間でコミュニティが生まれ、その職場や友人、家族にも波及し、年々その輪が広がっています。このコミュニティこそが、人と人、人と街のコミュニケーションを作り出すこととなりました。参加者同士が街中であいさつし合い、お店とコミュニケーションを積極的にとり、自主的にイベントを盛んに開催しています。

コミュニティは、相互の参加意欲を掻き立て、イベントの継続的な開催の後押しとなります。さらには、神田カレーグランプリ決定戦にも影響が出てきました。

マイスターからボランティアとしてお手伝いいただける方が年々増え、2日間のイベントが地域の社会人、学生、来場者らを繋ぎ交流を生み出す効果も出てきたのです。スタンプラリーを開催することによって、街の活性化がより理想に近づいてきました。

創立	1993年10月13日(平成5年)	事務局	〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2 グランドマンション九段906号
例会日	毎週水曜日 12:30~13:30	TEL	: 03-3288-7300 FAX : 03-3288-7400
例会場	ホテルグランドパレス Tel : 03-3264-1111	E-mail	: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
会長	: 永井 一史 幹事 : 西村美智子	http	: //tokyo-orc.jp/
会報委員長	: 松島 健		
会報委員	: 木村・木宮・佐々木・八木・山下		